

平成 26 年 9 月 4 日(木)
18:00-19:15
於：開発総合センター1階 大会議室

第 9 回 産業・観光復興支援分科会 主な意見

<大島町復興計画案への意見等>

○P15～P16 方針④観光振興の推進

- ・『3-4-4 岡田港周辺の環境づくり』『3-4-6 元町港周辺の防災性能強化』『3-4-8 岡田港、元町港周辺の環境づくり』について、いずれも『検討します』で終わっている。岡田港などでは、事業が進行しているものもあり、『検討します』という表現は疑問である。再検討してほしい。

○P27 『4.3 元町地区の復興まちづくり計画に係る主な施策』

- ・『M-1-1 まちづくり事業手法の導入』について、わかりにくい。策定委員会でも、委員から指摘があったが、わかりやすくした用語の解説集などを最終的にまとめてほしい。

○P33 『平成 25 年台風 26 号に伴う土砂災害 被害概要』

- ・他の災害との比較のため、流出した土砂や流木の量、被災した面積など記載してほしい。

<復興計画推進に向けての意見等>

○商品券等の広報について

- ・宿泊者への観光復興商品券の配布、航空機(ANA)利用者への搭乗率向上対策商品券の配布、都の宿泊助成について実施してきた。宿泊者への観光復興商品券の配布は 8 月で終了したが、航空機(ANA)利用者への搭乗率向上対策商品券の配布は 9 月まで、都の宿泊助成は 3 月までである。利用促進のため、様々な方法を使って、引き続き、広報PRを行ってほしい。

○デザイン性に配慮したまちづくりについて

- ・産業・観光復興支援分科会でも議論があった『デザイン性に配慮したまちづくり』が復興計画案に反映されたことは良いことだと思う。全国の観光地でも、地元の人たちが考えたデザイン性に富んだまちづくりが行われた事例がある。被災エリアを中心としたまちづくりには、将来を見据えたデザイン性が取り入れられると良いと思う。

○今後の事業推進について

- ・復興計画は、今後の事業推進の伏線になっている。この計画を活用して、産業・観光復興の主体となる人たちが、具体的な事業の申請や提案を積極的に行っていく必要がある。